

教育に哲学・宗教の裏付けを ブランド力高める学園づくりに邁進

愛知学院の新理事長中村見自師に聞く



明治9（1876）年、名古屋市中区大須に曹洞宗の専門学校として開設され、現在、中部地区最大級の規模を誇る愛知学院大学などを擁する学校法人愛知学院（名古屋千種区）の新理事長に僧侶でもある中村見自（けんじ）師（70）が昨年10月27日に就任した。コロナ禍で苛酷な状況にあり、新しい学びと教への形を模索する教育界。1万4000名の学生・生徒を有する総合学園のトップとしてどんな舵取りを目指すのか。中村師は「人間の生き方をどうするかです」とアフターコロナの成熟社会を見据える。（インタビューは本誌・塚本隆編集長）

タイでのスキンシップから

塚本 宗教家として歩まれることになったきっかけなどについて教えてください。

中村 私は鳥取県倉吉市の曹洞宗の寺に生まれ、兄弟が沢山いました。長男が東京に出て商売をしていて、貧乏くじを引いたなと思いましたが跡取りになるべく曹洞宗の駒澤大学に進学しました。お寺の小僧をして先輩2人と朝掃除などの修行。ズルズルと跡を継ぐようなことでした。宗教家の道を歩むきっかけといえば、大学4年の時、海外へのあこがれから東南アジア3か国をバックパッカーのように旅した時です。タイ・バンコクをうろうろするうち孤児院

を訪ねました。海拔が低くて湿気が多くスラムみたいところで子供たちは皮膚病を患っていました。普通なら可愛いと頭をなでたりしますが、仏教国タイではそれはタブーで、顔も触られない。でも思い切って子供とスキンシップして、その時、坊さんになっても大丈夫かな、と思ったのです。

その後、大学を出て大本山総持寺（横浜市）で3年ほど修行して、郷里に戻り母校の県立倉吉東高校の国語講師を7、8年勤めました。同校は国公立大学への合格率はトップクラスです。同時に若い人のグループに入り、町おこし・街づくりにドブプリはまりました。田舎でやったイベントの成功や失敗の事例をみんなに話し

たりして知事から表彰を受けましたし、さらに国交省から頼まれ東は栃木、西は山口県・萩まで月に2、3回講演に行きました。

——それから宗議会議員に選出されました。

中村 52歳の時（2002年）に曹洞宗の宗議会議員になりました。宗議会議員は国で言えば国会で、議員は国会議員みたいなもの。私は鳥取・岡山の宗議会議員で全国では72人います。本山の修行や雲水を指導したりするものではなく、教団をどう運営していくのかという立場の宗政家です。その後さらに全国で10人の曹洞宗責任役員の一になり、同時に教化部長に就任しました。さらに4年後の2018年に伝道部長となり、2020年にその任期が切れて、責任役員会議の推薦により10月、愛知学院の理事長に就任しました。

——責任役員としてご活躍なさいました。

中村 教化部長時代、国際課があり私は「世界に広がる曹洞宗」をテーマに欧米や南米を回りました。以前から禅は世界的に興味を持たれており、世界に向けて発信していくべきだと考えていました。アップル創業者のスティーブ・ジョブズ（1955～2011）は若い時から禅信者でした。葬式は曹洞宗のスタイルで執

り行われました。またシリコンバレーにお寺も建立し、押すな押すなの盛況ぶりと聞きます。私は禅が世界に広がっていくのを目の当たりにしました。

檀家制度に頼らない寺とは

もう一つは毎年、御詠歌の全国大会が会場を変えて催され、1～2万人が集まりますが、昨年は5月に札幌で開催予定でした。伝道部長の私の担当ですが、コロナ禍の影響でやむなく中止に。その苦渋の決断を2月23日に下しました。さらに今年5月、長野で開催予定でしたが、その中止の決定も私の任務となり、昨年秋に決断しました。

最後にもう一つは、私は過疎対策の課を作り2年間やってきました。人口減は日本全体の問題で国も地方も悩んでいます。私どもの現実問題としては檀家が減り寺の合併とか、解散に関わらざるを得ない。その中で寺は檀家制度に頼ってはいけません。そこからは先細りになるだけです。そこから転じて何が出来るか、教団としてはそれをどう支援できるか、が課題です。

コロナ禍の前から、家族葬とか墓じまいとか、社会変化の波が起きていましたが、コロナ



楠元キャンパス（千種区楠元町）には法人本部棟や歯学部基礎研究棟、薬学部棟もある